

能登半島地震 災害派遣レポート



上下水道局では、能登半島地震による下水道の災害復旧のために、令和6年5月より石川県珠洲市に上下水道局職員を派遣しています（派遣期間は3年間）。

今回は、初年度として令和6年5月より令和7年3月まで下水道課から派遣された森田主任（現道路整備課）に、現地での活動状況を中心にインタビューしました。

現地ではどのような活動をされていましたか？



下水道課から派遣された
森田主任（現道路整備課）

森田主任 今回の災害派遣では、下水道の応急の復旧工事に携わったほか、被災の状況を確認し、今後の本格的な復旧に向けて方針の検討などを行いました。

また、一部地域では、各家庭に仮設で浄化槽を設置することで排水機能確保しており、その設置箇所の確認のために現地で立ち会う事もありました。

現地ではどのような問題点がありましたか？

森田主任 下水道の復旧を進めていくうえで、まず被害状況の確認を行いました。が、倒壊した家屋が道路を覆うなどしていたため、調査ができなかった場所が多くありました。

また、珠洲市内の業者だけでは手が回らないため、市外や県外の業者の手を借りたかったのですが、地理的にアクセスがよいくないことや、珠洲市内で営業している宿が少なかったことから、業者がなかなか集まらないといった問題がありました。

派遣に行く前と行った後で、想像と違ったことはありましたか？

森田主任 珠洲市の復興は想像以上に時間のかかるものだと感じました。被害があまりにも大きかったため、被災したまま手つかずの場所が多くありました。

現地は人手が全く足りておらず、復旧工事の着手も思った以上に遅くなりました。

現地で困ったことはありませんか？

森田主任 派遣で珠洲市にきた当初は、市役所や公衆施設のトイレでも使用できないところがあり困りました。

また、営業している飲食店が少なかったことや、店舗の営業状況がわからず困りました。

派遣に行った感想、被災地に対する思いはありますか？

森田主任 派遣開始当初、震災発生から5ヶ月が経過していましたが、水道や電気が復旧していない地域もあり、避難所生活を続けている方も多くいらっしゃいました。また、ほとんどの家屋が全壊、半壊している地域もあり、今回の震災被害の甚大さを思い知らされました。

その後、仮設住宅の整備や倒壊家屋の撤去など復旧作業は進んでいましたが、9月の豪雨被害で震災の復旧作業は中断を余儀なくされ、河川の氾濫による土砂や流木の片付けに追われました。

この一年で複数の大きな災害に見舞われた珠洲市ですが、店舗が営業を再開したり、住民が集い伝統のお祭りを行うなど、少しずつ活気を取り戻しつつあります。美しい自然に囲まれた珠洲市の一日も早い復興を願っています。

